

巻頭言

「奈良で仏さまをみて」

理事長 新谷 友良

11月の協会ニュースで少し触れましたが、昨年全難聴福祉大会が奈良市で開かれ、本当に久しぶりに奈良の仏さまを見ました。

大会1日目、午前中時間があつたので、興福寺の国宝館が開くと同時に入館し、人がほとんどいないなかゆっくりと阿修羅像を見ました。日本で最も人気のある仏像の一つですが、西金堂に安置されていたものが今は国宝館にあります。ガラスケースに入っているわけではなく、他の八部衆像と一緒にそっけなく並んでいます。正面から時間をかけてみた後、左からそして右から見ることができました。

そのほか、国宝館には千手観音菩薩立像や仏頭など国宝クラスが贅沢に並べられていて、東京の展覧会などで見るのとは随分違った雰囲気の中で拝観できました。興福寺の境内（といっても、全部が塀でおおわれているのではありませんが）のしっとりとした静まりが、お寺で仏さまを拝んでいるという思いを強くさせます。

1時間近く国宝館にいて、まだ時間があつたので観光客の列に加わり、のんびりと東大寺まで歩きました。途中、奈良の国立博物館を横に見て約10分ぐらいですが、春日大社や若草山に向かっての歩きやすい道筋で、せんべいをせがむ鹿の相手をしたりしながら、メジャーな古都の空気を楽しみました。

東大寺は廻廊の保存修理工事をしていて、門前は混雑しています。バスを連ねて観光客が集まる時間になったので入場はパスして、大会会場になる奈良文化会館の方向へ当りをつけ、人の少ない戒壇院への脇道に入りました。大分遠回りになるかな、と思っていましたが、少し行った四つ角に奈良文化会館への行先表示があり、結果的に最短コースを選んだようです。道の両側には県立美術館や奈良県庁がありますが、民家も多数並んでおり、土曜日の朝日をあびておじさんが犬を連れて散歩していました。

その日の午後は福祉大会の分科会。奈良十輪院の橋本純信住職の「人間は4次元に生きている」というお話を伺ったあと、住職のご指導で瞑想体験をしました。浅めに椅子に腰かけ、朝からの仏さまやお寺の様子を思い浮かべてやがて無想。心が落ち着く時間でした。